

學 9

941

奈豪傑傳

金壽堂版  
國政



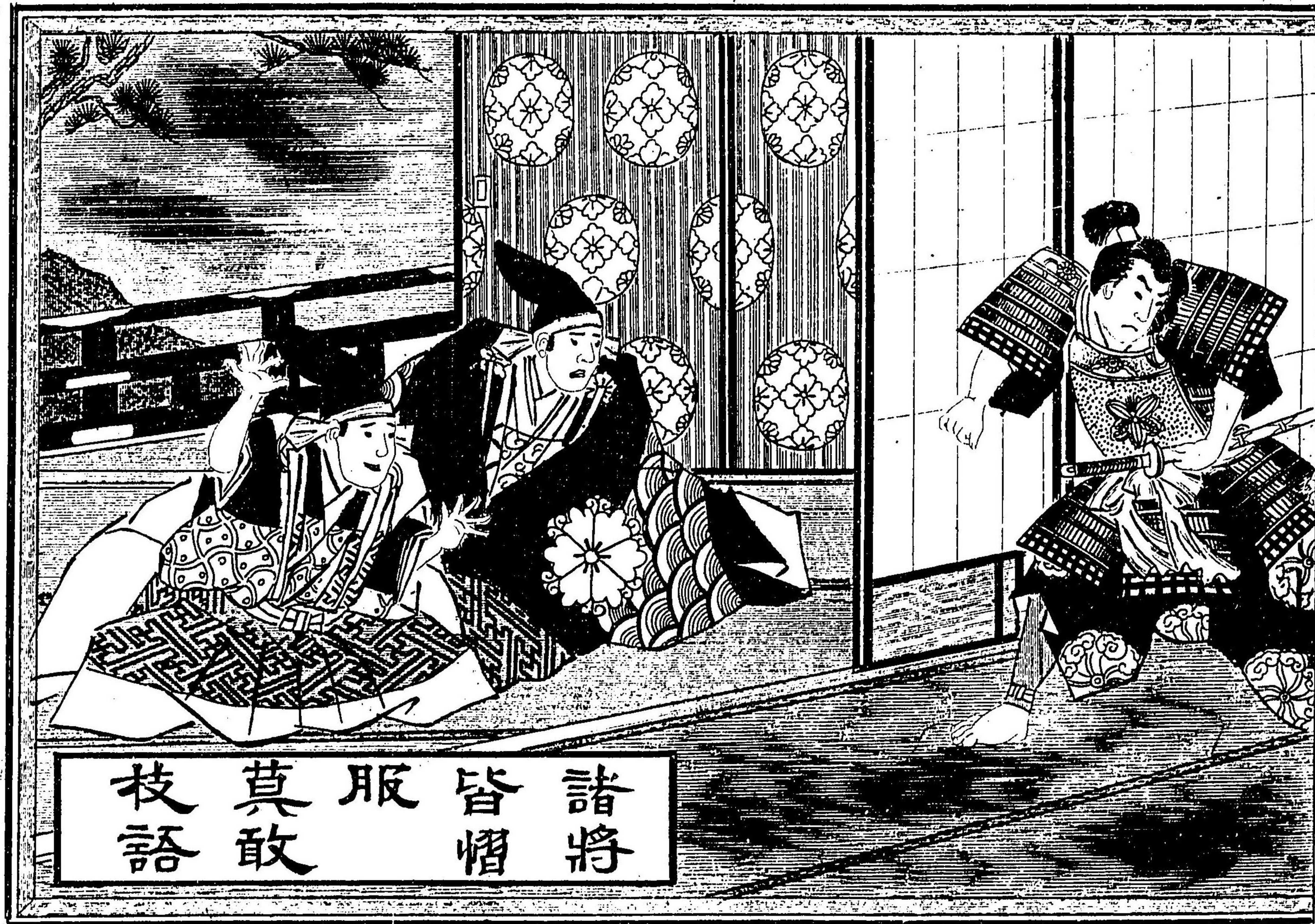




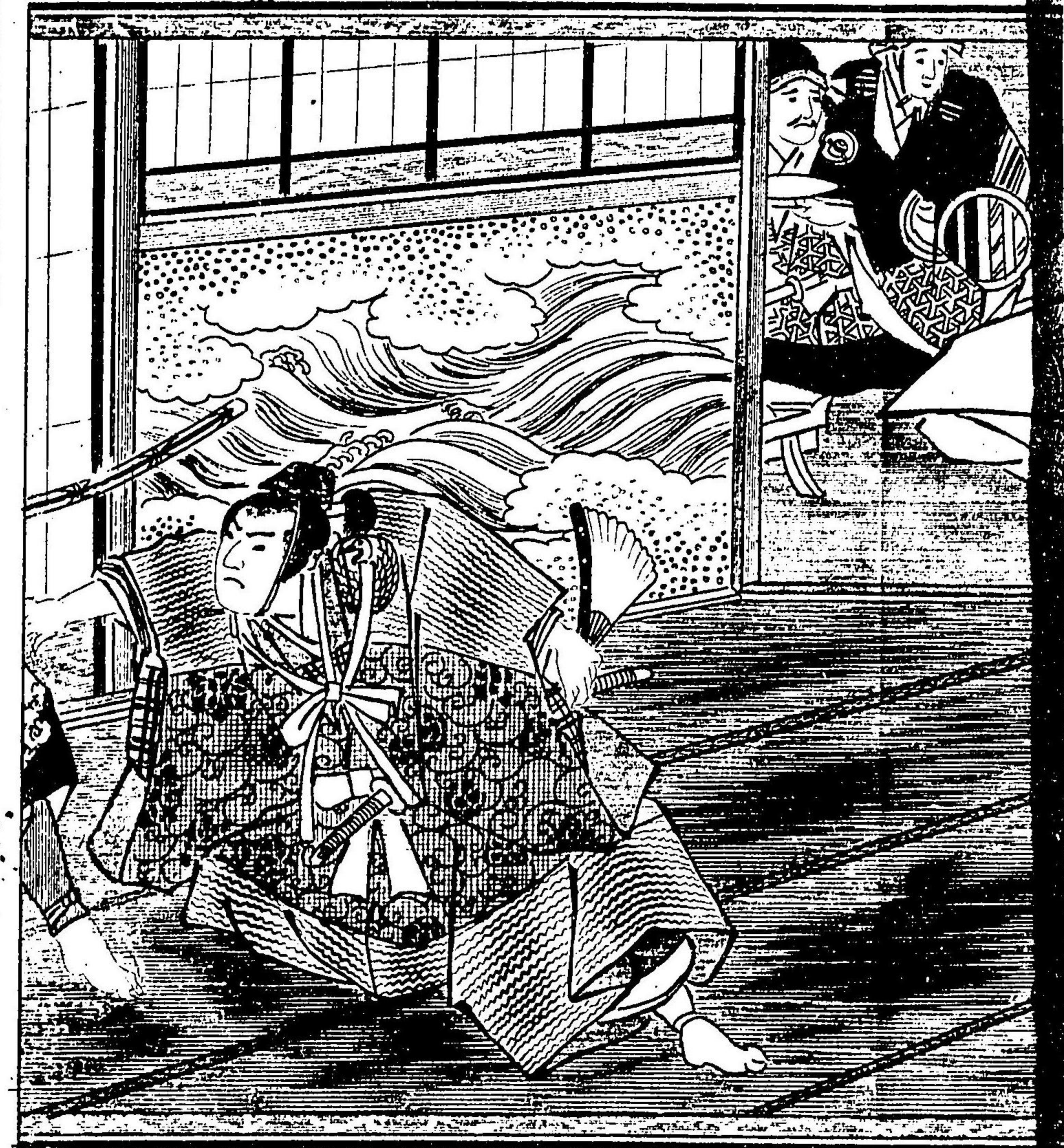








諸將皆服莫敢  
 枝語











つぎ盛と合戦の激場と記さん建暦二年八月信濃  
 の住人泉小次郎親平二代將軍頼家公の落胤千方君と  
 り立外戚の威とよむ將軍家とよむがりくはよ北条と  
 亡ぼえんと陰謀と企て  
 一味の者と誘ひけり  
 茲小次郎  
 条朝時  
 八日頃  
 公討  
 の旨

△亡し世安静まなると企て  
 のける  
 好事門と  
 出す隠事  
 千重と  
 走る  
 の習ひ  
 此事  
 鎌倉不  
 開へ  
 事ありとて  
 事ありとて  
 義成北条の  
 其時と奪ひ去らんと

△折節朝日奈が  
 居をり見咎  
 如何といふ  
 様なく只黙  
 朝日奈  
 義の道  
 将軍の  
 放ち



△亡し世安静まなると企て  
 のける  
 好事門と  
 出す隠事  
 千重と  
 走る  
 の習ひ  
 此事  
 鎌倉不  
 開へ  
 事ありとて  
 事ありとて  
 義成北条の  
 其時と奪ひ去らんと





大小名を招き出陣の  
 長門入道と  
 義秀の義成

○豫て搬入置きけれ  
 是より開  
 より遅  
 ×五月三日  
 小軍と出しぬ  
 其先陣



又朝日奈  
 義秀の義成  
 小和田左衛門  
 義成  
 朝日奈  
 盛平  
 余小  
 館小  
 り彼方ハ用意全から△

△ざり  
 日忽ち  
 ち小打  
 破りて暮  
 府とこ  
 て進み入  
 義秀  
 一大会  
 小向ひ能  
 敵来と  
 思上折から潮田  
 義秀夫と見る  
 より鋒とまどへ一上  
 一下戦ひ居たる因





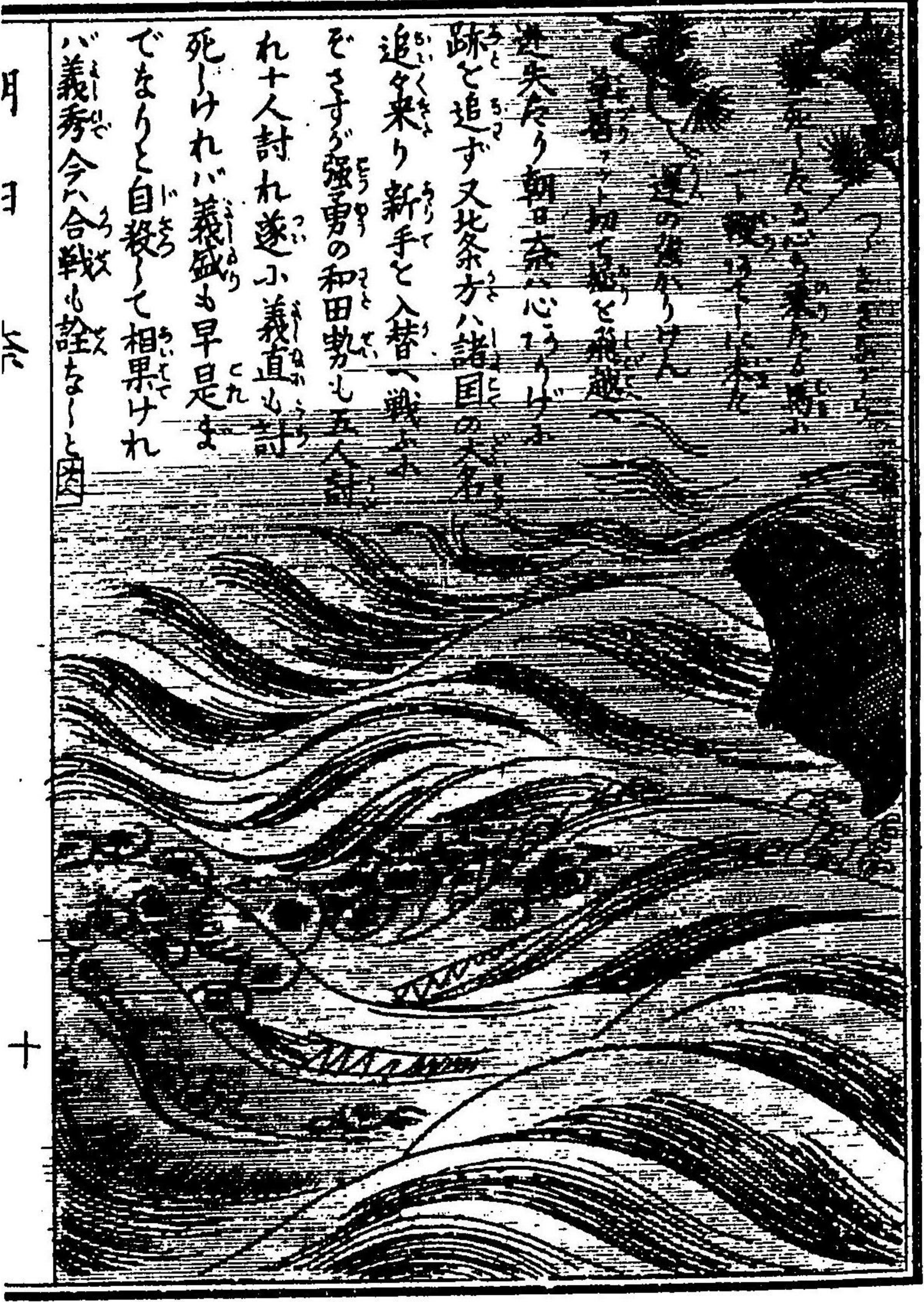
景直横  
合より朝  
日奈目掛切て



蜘蛛の糸の  
花を在よ  
如く下  
たる鉄櫛  
と受指した  
景直八段之小  
成る飛けり折しも足  
利義氏持出谷かハハ。

生捕んとすて敵  
兵集り義方を取囲  
討果さんと云くまで  
義方せしち笑ひの  
やといふより  
早く追拵へ義氏  
驚き狼狽馬を  
追んと進んする  
と義方八走  
奇り無のこま  
すしと止めけ  
るに義氏因





月 日 年

進退たり朝日奈心... 跡と追す又北条方ハ諸国... 追々入り新入替ハ戦... ぞまさし強勇の和田勢も... れ十人討れ遂小義直も討... 死しけれハ義盛も早是ま... でなりと自殺して相果けれ... 義秀今ハ合戦も詮まると因

+



つきと従卒  
 と具し敵中七押  
 廻るに敵は恐れて逃  
 奇りしものふく口見  
 送りて居るのみなり  
 斯て朝日奈義秀大  
 り安房國へ渡り同  
 三日間逗留なすれども  
 討手の進来る様子をけ  
 ば斯てハ兎も角に安  
 大船數艘と仕立是れ  
 乘異國へ渡り其地の王  
 なりて自ら東路將軍義



明治廿年二月四日御届

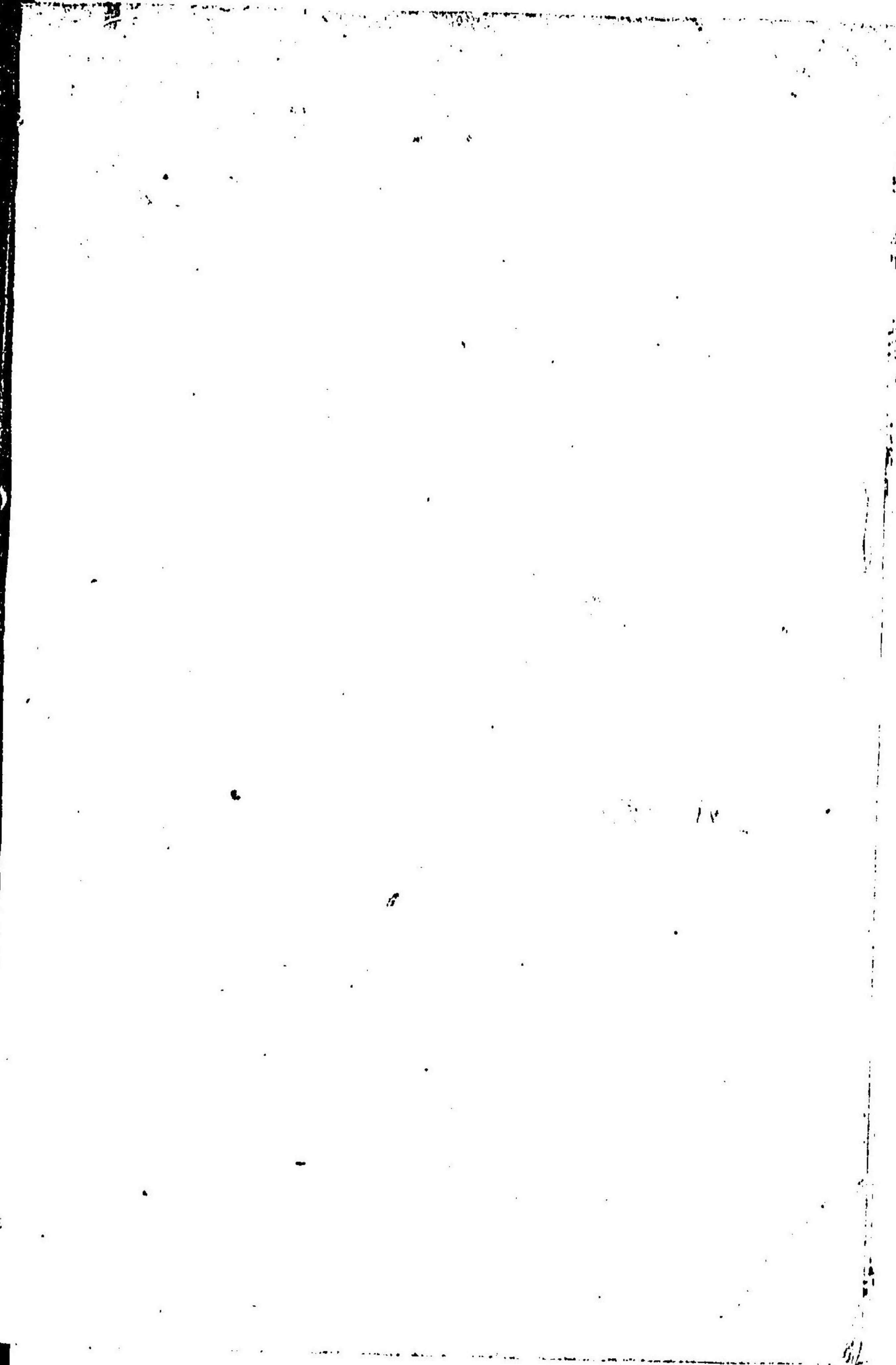
浅草區南元町十二番地

編輯兼出版人 牧 金之助

此の船は  
 大船數艘と仕立是れ  
 乘異國へ渡り其地の王  
 なりて自ら東路將軍義











特59

941

平家景清

金壽堂版  
改訂

092049-001-8

特59-941

[繪本]

梅堂 国政/画

M20-21

DBP-1020

